

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月3日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K08822

研究課題名(和文) 北タイの移民労働者における生活習慣病と職業性ストレス予防に関する介入研究

研究課題名(英文) Cultural Assimilation and its effects on health status among migrant workers in Chiang Mai, Thailand

研究代表者

白山 芳久 (Shirayama, Yoshihisa)

順天堂大学・国際教養学部・助教

研究者番号：30451769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：北タイでは多くのミャンマー系移民が就労しているが、移住先のタイ語の運用能力や文化適応度にはばらつきがある。移民労働者の健康状態を把握し、社会経済要因や異文化適応との関連を検証し、リスク要因を特定する目的で、現地調査を実施した。調査協力者414名の年齢は 29.5 ± 9.0 歳で、26.3%が喫煙、40.8%が飲酒の習慣ありと回答した。75.8%は運動習慣が無く、40.1%が過体重/肥満に、27.1%が高血圧に分類された。うつ傾向は13.0%に認められた。筋骨格系障害の有訴者は53.4%で、異文化適応が疎外状態と分類された労働者やうつ傾向との有意な関連が認められ、早期介入の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

労働の自由化が進展するASEAN経済圏において、移民労働者の労働・生活環境に起因する健康被害の実態(筋骨格系障害及び生活習慣病)を明らかにした。疾病障害リスク因子を特定する際に、移住した時期や背景、社会経済的要因に加えて、自文化(ミャンマー文化)から移り住んだ先の相手文化(タイ文化)への文化適応度の影響に着目して解析したことで、異文化適応の状況が健康に影響を与えうるというエビデンスが得られた。本研究の成果は、タイのミャンマー系移民労働者の健康改善に貢献するだけでなく、日本国内においても移民労働者に対する健康政策を議論する上での論拠となる知見を提供した。

研究成果の概要(英文)：Quite a few migrant workers from Myanmar reside and work in northern Thailand, especially Chiangmai. A cross-sectional, face-to-face interview survey was conducted to study their health status and examine its relationships with socioeconomic factors and acculturation status.

The mean age of the respondents (n=414) was 29.5 ± 9.0 . 26.3% were currently smokers and 40.8% reported they drink alcohol. 75.8% had no habit of regular physical exercise and 40.1% were found to be overweight or obese. 27.1% were found hypertensive and 13.0% were found depressed. Musculoskeletal disorders were reported from 53.4% of the respondents, and were statistically associated with those categorized as culturally marginalized and depressed.

Our findings show the necessity of adequate interventions to address migrant workers' health issues and to support their adaptation into the new culture and working environment.

研究分野：国際保健医療学

キーワード：移民労働者 異文化適応 筋骨格系障害 チェンマイ・北タイ ミャンマー

1. 研究開始当初の背景

ASEAN 経済圏で、タイには隣国から多数の移民労働者が流入している。経済発展が著しく移民労働者が急増するタイ北部の中心都市チェンマイには、2016 年統計で 81,299 名が移民労働者として登録されている。彼らの多くがミャンマー人もしくはタイヤイと呼ばれる少数民族の出身者である。

研究者らは、タイ北部において、タイ人や少数民族を対象とした生活習慣病対策に関する国際共同研究を実施してきた。そこで、移民労働者の労働環境・健康状況が著しく劣悪にあることを目の当たりにした。タイ政府は移民労働者に対し、梅毒や結核といった感染症スクリーニングの受診を毎年義務付けている。しかしながら、移民労働者としての雇用形態や生活に起因する様々な健康被害に関する実態調査は十分に行われていない。また、障害・疾病を予防するための措置は全くと言ってよいほど実施されていない。

タイに限らず世界的にも、経済自由化や都市化が進展し、労働人口はますます流動化する一方で、移民労働者の健康問題は多くの場合見過ごされている。移民人口の多い欧米諸国では、移民であるという社会的要因が在来人との間に大きな健康格差を生じさせているとする調査結果が、相次いで報告されている (Devi 2009; Rechel et al 2013; Barmania 2013)。ASEAN 経済圏やその中心国の一つタイにおいては、エビデンスが驚くほど限られており、健康被害が過小に報告されているおそれがある。

チェンマイ在住のミャンマー系移民労働者は、ミャンマー語は話すことも読み書きすることもできるが、移住先のタイ語の運用能力は個人によって差がある。タイやチェンマイの文化への同化の状態にもばらつきがある。

新しい文化への同化は、1)同化、2)分離化、3)統合化、4)疎外化の 4 つのパターンの何れかに分類されるという考えがある。移民労働者に関する既存研究は、何らかの疾病の有病率や発病率等については報告しているが、新しい文化への同化の状態が、健康上のリスク(高血圧、糖尿病、肥満、事故・外傷、精神的ストレス等)に何らかの影響があるかどうかを調査した研究は未だ無い。

健全な移民労働者のための政策、彼らの健康を守るための公衆衛生上の戦略を立てるためにも、この仮説を検証する必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、

- (1) 移民労働者の労働・生活環境に起因する健康被害の実態 (筋骨格系障害や生活習慣病) を明らかにし、
- (2) 健康被害の有無と、新しい文化への同化の状態、及び社会経済的要因との関連を検証し、危険要因を特定することである。

3. 研究の方法

2017 年 12 月、チェンマイ在住のミャンマー系移民労働者に対し、構造質問票を用いた対面インタビューを実施した。

この地域の移民労働者の医療施設へのアクセスは 10%程度と限られている。そのため、本研究の調査者らは地元の医療施設のスタッフらと協力し、チェンマイ県労働局に出向いて、健康診断・相談と労働許可申請の書類手続きとをワンストップで行える窓口を設け、そこで本研究への対象者をリクルートすることにした。18 歳以上 60 歳以下で、インフォームドコンセントに署名同意した者を調査対象とした。

新しい文化への同化については、妥当性が既に検証されている East Asian Acculturation Measure (EAAM) scale を採用した。EAAM は、Barry (1984)らによってアジア社会でその有効性が確認された指標である。これを英語版からミャンマー語版へ、各言語のバイリンガルかつ両文化に明るい研究者らのグループ討議を経て翻訳を行った。2015 年 8 月には、移民労働者を対象としたパイロット調査を 30 名で行い、EAAM Scale の信頼性と妥当性について検証した後、構造質問票としてまとめた。

筋骨格系障害やうつ傾向の有無、健康行動、そして移住した時期や背景、現在の雇用、単身か家族と同居かなど、社会経済的要因についても調査した。

4. 研究成果

調査協力者 414 名の平均年齢は 29.5 ± 9.0 歳で、26.3%が喫煙、40.8%が飲酒の習慣ありと回答した。75.8% が定期的な運動習慣が無いと回答した。40.1%が過体重/肥満に、27.1%が高血圧に分類された。うつ傾向は 13.0%に認められた。

筋骨格系障害の有訴者率は 53.4%であった。直近 12 ヶ月の障害の有無と関連がある要因を分析したところ、女性であること、うつ傾向、異文化適応が疎外状態と分類された労働者かどうか、統計的に有意な関連が認められた。

これまでに、移民労働者を対象にタイ各地で調査・報告されてきた数値と比べても、本調査の対象者の筋骨格系障害の有訴者 53.4%の数値は高く、文化的に疎外されているかどうかとも関連があることが統計的にも確認された。このポピュレーションの Quality of Life の改善のためにも、公衆衛生予防アプローチを含めた早期介入の必要性を示唆する結果であった。

本研究では、移住した時期や背景、社会経済的要因に加えて、自文化（ミャンマー文化）から移り住んだ先の相手文化（タイ文化）への文化適応の影響に着目して解析したことで、異文化適応の状況が健康に影響を与えうることが示された。

今後は、労働の自由化が進展する ASEAN 経済圏において、移民労働者に対する健康政策を議論する上で、文化的疎外感の影響を考慮する根拠となりうる結果を得た。

研究の社会的意義

日本政府や JICA は、UHC(Universal Health Coverage)をスローガンに、移民労働者のような社会的弱者を含め、「全ての人々が適切な予防・治療・リハビリ等の保健医療サービスを支払い可能な費用負担で受けられる状態」を実現するために世界各地で取り組みを続けている。

本研究の結果は、2019 年 1 月に、チェンマイ県の保健局長を訪問し報告した。なお、移民労働者の生活・労働の現状、健康被害に関する科学的データを収集・蓄積し、引き続き注視していく必要があること、個々人の文化同化の状態やヘルスリテラシーに応じた介入を計画する必要があることなどを研究結果に基づき提言した。チェンマイ政府、保健医療関係者らが政策立案していく上で貴重な知見を提供でき、今後も流入が続くと予想される移民労働者の福祉向上にも大いに貢献すると思われる。

タイ側の研究実施母体を引き受けたのは、チェンマイに拠点を持つ国立ラチャパット大学公衆衛生学科である。日本側の研究代表者・研究分担者らとは、10 年以上に渡る共同研究歴がある。本研究の実施を通して、タイ、ミャンマーを中心に、日本と ASEAN の研究交流をより進展、深化させることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Aung Thin NN, Shirayama Y, Moolphate S, Aung M, Lorga T, Yuasa M, Staying separated in a geographically closer and linguistically similar working environment: A survey of Shan migrant workers in Chiangmai, Thailand, AIMS Public Health, 査読有、2019 in print

Aung Thin NN, Shirayama Y, Moolphate S, Aung M, Lorga T, Yuasa M, Health risk behaviors, Cultural Adaptation and Depression affecting Musculoskeletal disorders: A survey among Myanmar migrant workers in Chiangmai, Northern Thailand, Annals of Global Health, 査読有、2019 in print

〔学会発表〕(計 4 件)

白山芳久, 湯浅資之, タイ国北部チェンマイにおけるミャンマー系移民労働者の健康状態と危険因子、日本公衆衛生学会、2019

白山芳久, 湯浅資之, Aung M, Moolphate S, Aung Thin NN, 横川博英, 北タイにおける移民労働者の新しい文化への同化の度合いと生活習慣病対策について、日本国際保健医療学会学術大会、2016

白山芳久, 湯浅資之, Aung M, Moolphate S, Aung Thin NN, 横川博英, タイ国北部チェン

マイにおけるミャンマー系移民の生活と健康課題、日本国際保健医療学会西日本大会、2018

Aung Thin NN, Yuasa M, Shirayama Y, Aung M, Moolphate S, Becoming culturally sensitive through the process of instrument translation: Unexpected learning from an acculturation study with Shan immigrants in Thailand、The 4th International Conference: Qualitative Research in Nursing, Health & Social Sciences (QRINH)、2018

〔その他〕

<https://www.juntendo.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：湯浅 資之

ローマ字氏名：(YUASA, motoyuki)

所属研究機関名：順天堂大学

部局名：国際教養学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：30463748

研究分担者氏名：横川 博英

ローマ字氏名：(YOKOKAWA, hirohide)

所属研究機関名：順天堂大学

部局名：医学部

職名：先任准教授

研究者番号（8桁）：00328428

研究分担者氏名：峰松 和夫

ローマ字氏名：(MINEMATSU, kazuo)

所属研究機関名：長崎大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：60622644

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：Thin Nyein Nyein Aung

ローマ字氏名：(Thin Nyein Nyein Aung)

所属研究機関名：順天堂大学

研究協力者氏名：Saiyud Moolphate

ローマ字氏名：(Saiyud Moolphate)

所属研究機関名：Chiang Mai Rajabhat University、タイ国

研究協力者氏名：Myo Nyein Aung

ローマ字氏名：(Myo Nyein Aung)

所属研究機関名：順天堂大学

研究協力者氏名：Thaworn Lorga

ローマ字氏名：(Thaworn Lorga)

所属研究機関名：Boromrajonani College of Nursing Nakhon Lampang、タイ国

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。